ICT導入に関する結果報告書

法人名 株式会社未来パーク
事業所名 みらいワークス（就労継続支援B型）

課題

支援記録は、現在は手書きで行っている。細やかに記録しようとする、とても時間がかかり、文章を書くのが苦手な支援員は、一人分の1日分でも30分以上かかる場合もある。

利用者との面談では、口頭で説明しようとする、とても時間がかかってしまう。文字や写真、図などで示すことで利用者も理解しやすい。

支援会議では、活動の様子を職員で共有しながら支援を進めていくことが大切。しかし利用者の様子を伝える時に言葉だけの説明では「伝わらない・時間がかかる」という悩みを抱えている。

在宅利用者の作業の進捗状況、利用者からの作業の報告の管理をパソコンにて行っている。やりとりを行える端末が1つしか無いので、時間がかかっている。

ICT機器 導入

導入機器名
(主なもの)
パソコン
タブレット

成果

支援記録は、パソコンを使用して記入することで、音声入力機能を活用することができるようになった。書くこと、入力することが苦手な職員も音声入力機能を活用することで、所要時間の効率化ができた。

利用者との面談では、文字や写真、図などで示すことで言葉だけの説明より短時間で効率的に伝えることができ、説得力も大きくなった。

支援会議では、職員間で意見を出し合う際に、パソコンに保存している動画や写真を見ながら話し合うことで利用者の課題の共有や支援方法の共有が図れるようになった。

在宅利用者の作業管理では、複数の端末が使用できることにより、分散して在宅利用者の作業の進捗状況、在宅利用者からの作業の報告の管理を行うことができるようになった。それにより、在宅利用者への連絡、フィードバックを迅速に行うことができた。

業務効率化のステップ

①導入前の検討状況

スタッフに対し、導入前にタブレット、パソコンをどれくらい使用できるのか確認を行った。

②導入内容

タブレットやパソコンを使用した実際の業務に関するデモンストレーションを職員間で共有する。利用者へのオンラインオンライン支援方法についての周知。

③導入における問題点の洗い出し・それに伴う改善など

タブレット、パソコンのスキル向上の進捗はスタッフ、利用者によって異なるので、課題が出た場合、ヒアリング、フォローを行い、都度改善した。出た課題、改善策については、ミーティングにて内容共有。

職員の声など

【良かった点】

- 情報共有に役立てられた。
- 文字や写真、動画、図などで示すことができるので、伝わりやすいと感じることも多かった。
- 台数不足による待ち時間が減った。

【悪かった点】

- まだパソコンやタブレット使用に関する難しさを感じる職員もいる。
- 操作を覚えるのに苦労、分からないことを他のスタッフに聞くことに申し訳なさも感じる。

【今後の課題・その他】

- 整備した環境が有効に活用できるよう、端末使用の講習等を継続して行っていく必要がある。
- 使用に対するハードルを下げるために、ホーム画面の配置の工夫、マニュアルのブラッシュアップを行う。
- 質問をすることで、皆で共有し、その分理解が深まるということを伝え続ける。
- 急がせず、失敗してもフォローできるので大丈夫という雰囲気継続して作っていくこと。